

情報教育の実践

守谷市立愛宕中学校

1 はじめに

本年度は、小中学校へタブレット PC や新しい電子黒板が導入されるなど、情報教育のハード面での進歩は著しい。また、各教科でデジタル教科書やスタディーノート、スカイメニューなど、ソフトも整備され、それらの有効活用が求められている。このような、新しい機器や教材が導入に伴い、本校では様々な教科、領域で視聴覚機器・教材の活用が図られている。今回はその様子を中心に紹介したい。

2 実践と考察

授業においては、課題提示や説明を中心に電子黒板、プロジェクターの活用が目立つ。新しい電子黒板は画面が大きくなったので、より視覚に訴える課題提示や説明、あるいは授業のまとめが行える。プロジェクターは、対象をより大きく映すことができるので、生徒に大きく提示したいときには有効である。



まず社会科での活用の様子を紹介する。社会科では、調べ学習などで PC 室の活用をしている。PC を活用することで生徒自ら問題解決し、既習知識を深め、思考力・判断力・表現力を向上させるために有効であった。

地理「世界の諸地域」の授業では、イメージを持ったり、生徒の興味・関心を高めたり、学習課題をより理解させたりすることに効果があった。また、資料を画像や映像で提示することは、具体的事例と地域的特色を結びつける話し合い活動を深めることができる。その結果は、ワークシートやテストの評価からもうかがえた。

理科では、タブレットPCの活用によって、一人一人の興味や関心に合わせて学習を進められるので、実験に主体的に取り組めるようになる。理科室以外で、例えば野外に出て自然の音を調査するなど、生徒の発想の広がりに対応できるようになり、更に関心が高まる。グループで活動する際は、実際に録音した音を聞き合ったり、波形をお互いに見せ合ったりすることで、学び合う環境を作ることができる。自分の意見を発表する場合にも簡単に提示することができ、表現力も高めることができる。

3 今後の課題

本校の組織目標は「授業を通して学び合える学習集団を育てる」である。言語活動を行う場を意図的に設定し、個々の思考力・判断力・表現力の向上が課題である。学び合う活動の中で、視覚に訴える課題提示や説明、あるいは授業のまとめを行う場面で、十分に情報機器が活用できようになりたい。

昨年末にタブレット PC が導入された。本校では様々な教科、領域でこれら新しい視聴覚機器をさらに活用していくことが課題になる。タブレット PC の研修を行い、どの教科でも活用できるようにしたい。教師が情報機器に慣れていないことが原因で活用できないことがあってはならない。

情報機器の管理担当者として、校内での ICT 促進のために、各教科担当者が使いたいときに使いやすいよう整備することを心がけていきたい。